

2026年6月19日

報道関係各位

株式会社JPF

富山競輪場「ドリームスタジアムとやま」を起点に、
グランfond富山2026が開催
地域資源としての競輪場を活用し、サイクルスポーツと地域交流を推進

株式会社JPF(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:渡辺俊太郎)が包括運営を行う富山競輪場「ドリームスタジアムとやま」は、2026年5月31日(日)に開催されたサイクリングイベント「グランfond富山2026」に協力・協賛し、大会のスタート・ゴール会場および前日イベントの会場となりました。



グランfond富山2026 スタート時の様子

当日は、県内外から約530名のサイクリストが参加。ドリームスタジアムとやまには早朝から多くの参加者が集まり、サイクルスポーツを楽しむ人々が集い、交流する拠点となりました。

JPFは、富山競輪場の包括運営を行う立場として、主催者および関係団体と連携しながら、スタート・ゴール地点となる競輪場の整備や当日の会場運営に携わりました。

富山競輪場を起点に、富山湾から世界遺産・五箇山へ

「グランfond富山2026」は、「自転車の活用でウェルビーイング！ 海拔ゼロメートルの富山湾から世界遺産・五箇山へ」をテーマに、富山湾岸や砺波平野、世界遺産・相倉集落など、富山県ならではの自然や景観を自転車で巡るサイクリングイベントです。

ドリームスタジアムとやまをスタート・ゴール会場に、参加者の走力や目的に応じた複数のコースが設定されました。

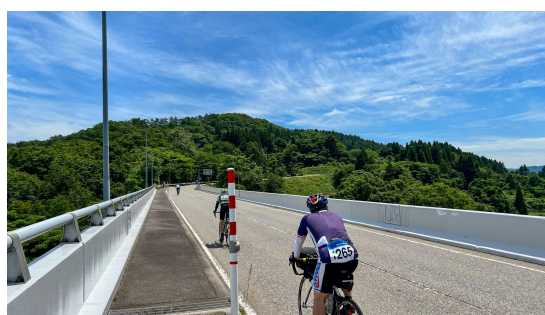
ロングコースでは、海王丸パーク、庄川水記念公園、世界遺産・相倉集落、利賀、八尾、常願寺方面などを巡り、富山湾から山間部へと続く富山ならではの地形を活かしたルートを走行しました。

また、ミドルコース、サイクリングコース、ファミリーコース、サイクルトレインなども設けられ、ロードバイク愛好家からファミリー層まで、幅広い参加者がそれぞれのペースでサイクリングを楽しみました。

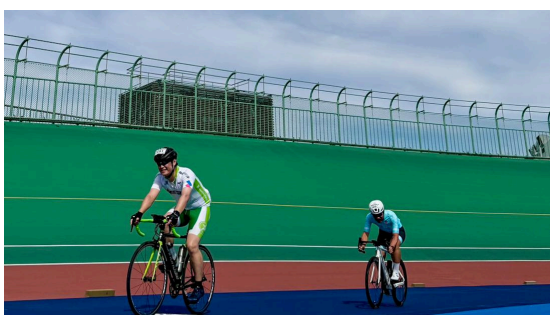
ゴール時には、参加者が富山競輪場のバンクを1周してからフィニッシュする演出も行われ、競輪場ならではの特別な体験として、参加者を楽しませました。



スタート前、会場に集まる参加者



富山の自然を感じながらコースを走る参加者



バンクを走行する参加者



ゴールに到着した参加者

競輪場施設を活用した前日イベントも実施

大会前日には、ドリームスタジアムとやまの施設を活用した企画も実施されました。競輪開催時に選手が利用する宿舎での宿泊企画をはじめ、自転車安全活用講座、33.3m一本橋チャレンジ、自転車安全啓発活動など、自転車を安全に楽しむための取り組みが行われました。

競輪場ならではの施設を活用した企画は、参加者が普段は知ることの少ない競輪場の一面を体験する場となりました。



グランフォンド富山2026の会場となった富山競輪場のバンク

サイクルスポーツと地域交流を支える、競輪場の役割

JPFは、競輪場の包括運営を担う企業として、施設の安全で円滑な運営を支えるとともに、地域や関係団体と連携しながら、競輪場がより多くの方に親しまれ、地域とつながる場となるよう取り組んでいます。

競輪事業は、地方財政への寄与に加え、自転車をはじめとする機械工業の振興や、体育事業その他の公益の増進を目的とする事業の振興にも寄与する役割を担っています。

ドリームスタジアムとやまは、グランフォンド富山のスタート・ゴール地点として継続的に活用されており、今回もグランフォンド富山2026のスタート・ゴール会場および前日企画の会場として活用されました。また、ゴールゲート付近には、子どもたちが自転車に親しめる「アドベンチャーエリア」も設けられており、競輪開催時以外にも地域の方々が訪れる場として活用されています。

こうした継続的な施設活用を通じて、競輪場がサイクルスポーツと親和性の高い施設であり、地域に開かれた交流の場としても機能していることを伝える機会となっています。

今回の取り組みについて、株式会社JPF 執行役員の吉田祐介は、次のように話します。
「JPFはグランfond富山実行委員会に参画し、長年にわたり地域の皆さまとともにこのイベントをつくってきました。現在は、スタート・ゴール会場整備の責任者も担当しています。」

2011年からはスタート・ゴール地点を富山競輪場に変更し、富山競輪場を公営競技の開催施設としてだけでなく、サイクリストが集い、富山の魅力に触れる交流の場として活用する取り組みを続けています。参加者の皆さまには、最後にバンクを1周してからゴールするという、競輪場ならではの体験も楽しんでいただいています。今後も、富山競輪場を地域に開かれた場として活用してまいります。」



自転車で障害物に挑戦できる「アドベンチャーエリア」

大会概要

大会名: グランfond富山2026

開催日: 2026年5月31日(日)

会場: ドリームスタジアムとやま(富山市東岩瀬/富山競輪場)

主催: グランfond富山実行委員会、NPO法人富山サイクル交流倶楽部

共催: チューリップテレビ、北日本新聞社

協力: ドリームスタジアムとやま ほか

参加者数: 約530名

公式サイト: <https://tcec.jp/gf-toyama/>

【株式会社JPFについて】

1950年、競輪やボートレースなどの公営競技におけるゴール着順判定用スリットカメラを発明。以来、多くの公営競技場において判定業務を支えてきました。2010年からは公営競技場のトータルマネジメント事業を開始し、全国各地で運営支援を展開しています。「人の成長機会を提供できる企業であり続けること」を理念に、地域活性化やサイクルスポーツ振興など、多様な取り組みを推進しています。

【メディアキット】

キット内の素材は本プレスリリースを掲載していただく場合のみ使用可能です。

https://drive.google.com/drive/folders/1t4kQvmf_Yx5Y_8Z0WcRdOAHjnySvJyK?usp=drive_link



【本件に関するお問い合わせ先】

ドリームスタジアムとやま

担当：松尾

TEL：076-438-3400

MAIL：info@toyama-keirin.com

問い合わせURL：<https://www.toyama-keirin.com/contact> 【問い合わせQRコード】

